

○インスペクターからのコメント（85回）

最初は我々も簡単に考えて、歩道はつくらず車だけ通す形で最小限の幅8mの道路を計画をしていましたが、住民の方たちから歩道も作ってほしいという意見が出てきて、その結果、車だけではなく歩行者との問題が出てきました。そうすると、横断歩道など様々な問題が出てきて、さらに森との関わりも重要になって…。一つの要素が増えると多様なシステムと関わることになるので、検討しなければいけない問題も多くなってきました。みんなで知恵を出し合いながら解決したいと思います。



岡村インスペクター

今日は天気も良くて過ごしやすい日でした。新メンバーも加わり、グループでもこれまでの経緯の話をしました。はじめは話し合いも作業も全体でやっていましたが、効率なども考えて植物、動物、施工グループができました。道路ができるにつれて、自転車などの問題が出てきて、実際の利用を考えて交通面から設計に反映するために交通グループができました。今後も散策路の利用状況を把握して検討に活かしていくなど交通グループとして意味のある検討で貢献していきたいですね。



藤田インスペクター

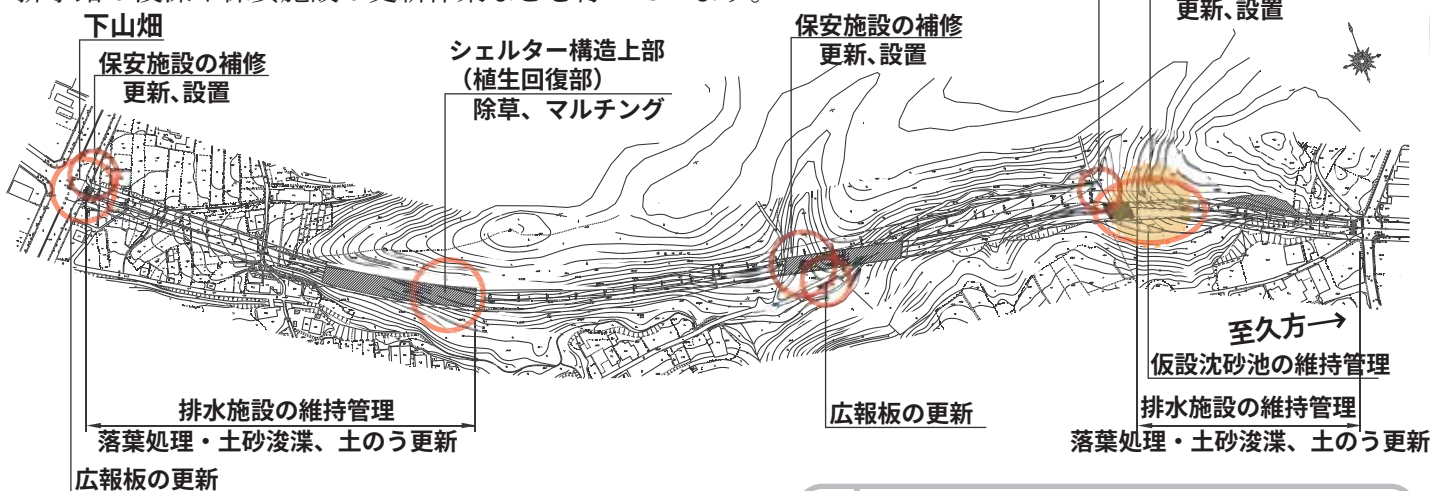
◇モニタリング＆植生回復活動

グループごとに分かれて、継続しているモニタリングを行いました。植生回復に関する活動も担当しました。

植物グループ	動物グループ	施工グループ	交通グループ
《植生回復活動》	・施工済み区間の竹の管理	・表土のサンプル採取	・壁面緑化の補植
《モニタリング》	・定点写真調査（林縁、道ぎわ） ・植生回復調査	・センサーカメラの設置	（今後の検討事項について話し合い）
		・地下水位調査 ・シェルター構造上部水位 ・土壌水分量調査 ・沢すじの浸食状況観測	

◇維持管理工事のお知らせ

工事区域の維持管理工事の状況をお知らせします。排水路の浚渫や保安施設の更新作業などを行っています。



工 事 名 市道弥富相生山線第4号防災施設管理工事
工事期間 平成26年10月末まで
工事内容 工事区域の維持管理



平面図

広報板の更新
保安施設の補修更新、設置

至久方→
仮設沈砂池の維持管理

排水施設の維持管理
落葉処理・土砂浚渫、土のう更新

連絡先

名古屋市天白土木事務所
TEL 052-803-6644 FAX 052-805-1594
整備係長 中根 和之／担当者 廣田 昭子
有限会社 ニイノ工業
TEL 052-805-2141 FAX 052-803-1602
現場代理人 岸谷 孝義

問い合わせ先

名古屋市 緑政土木局 道路建設部 道路建設課内「環境に配慮した道づくり」施工ワーキング事務局
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話:052-972-2873 FAX:052-972-4168

<http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/53-3-7-0-0-0-0-0-0-0.html>



●第85回施工ワーキング

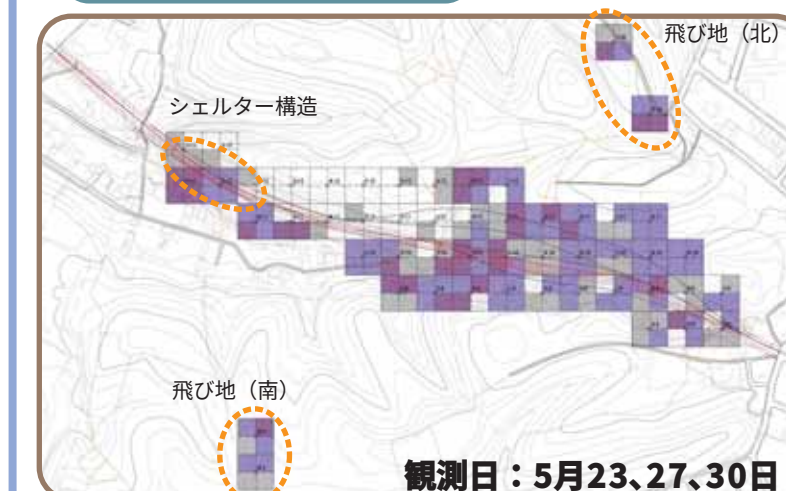
平成26年5月11日（日）に第85回施工ワーキングを開催し、22名が参加しました。

今回は平成26年度最初の施工ワーキングとして、弥富相生山線と施工ワーキングについてこれまでの経緯を確認しました。グループごとに担当しているモニタリングを実施し、植生回復活動にも取り組みました。

◇ヒメボタル調査の結果

本年もヒメボタル分布調査を実施しました。事前のピーク予測に基づいて調査日を設定し、5月23日、27日、30日の3日間に渡って調査を行いました。

平成26年度 観測日数



※5/23: 109匹、5/27: 565匹、5/30: 264匹

観測回数 凡例
□ 観測日数0日
■ 観測日数1日
■ 観測日数2日
■ 観測日数3日

「飛び地」とは？
調査を開始した平成14年の全山調査において、多くのヒメボタルが観測された比較観測ポイントです。

◆シェルター構造上部のヒメボタル

	観測日1	観測日2	観測日3	合計
平成24年度	10	2	1	13
平成25年度	11	9	1	21
平成26年度	11	151	13	175

平成24年度から、シェルター構造上部のヒメボタルも観測しています。年々増加しており、植生回復の成果が見えてきました。

《特集!》
相生山の歴史
～地形・地質編～ p.2～3

第85回 プログラム

1. 学びの時間
弥富相生山線と施工ワーキングについて
2. 前回（第84回）の確認
3. 維持管理工事のお知らせ
4. ヒメボタル調査の予定確認
5. グループ活動
6. グループ活動の発表

ヒメボタル分布調査の概要

【調査方法】
調査範囲を40mメッシュに区切り、各メッシュ内を30秒間観測して目視できたヒメボタルの数をカウントしました。
【調査時間】
夜10時～12時の2時間の間で行いました。

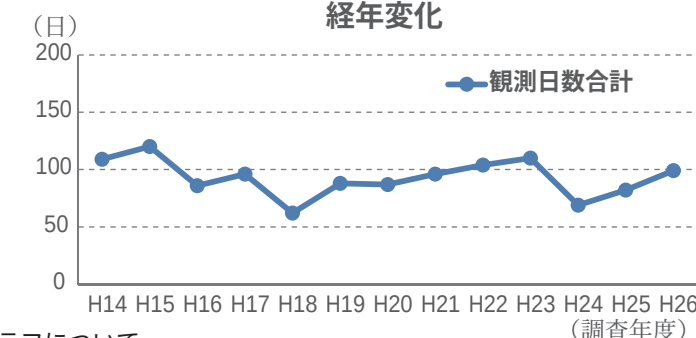
◆観測匹数

平成26年度は、5月27日の観測匹数をもっとも多く、565匹でした。平成14年度から継続している調査において、平成23年6月3日の観測匹数787匹に続く2番目に多い結果となりました。

◆観測日数

平成14年度～26年度まで観測した結果を見ると、年度によって増減はありますが、大きく「増加した」または「減少した」といった傾向は見られません。

経年変化



※グラフについて

- ・年度によって調査の実施日数が異なるため、実施日の中で観測匹数がピークであった日を中心とした3回分の調査結果から抽出しています。（各調査ポイントで観測された日数は、最少0日～最大3日）
- ・飛び地は省き、道ぎわの観測ポイントのみの結果を示しています。
- ・平成14年度～平成16年度は48観測ポイントの合計です。
- ・平成17年度以降は51観測ポイントの合計です。